

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立敷津小	学校	児童数	12
---------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

調査人数が12名(男子6名、女子6名)と少人数であるため、一人あたりに係る比重が大きく、平均値のみで、学校全体の傾向を判断できない部分もあるが、大阪市平均と比較すると次のような分析となる。

【男子】握力、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げでは、全国および大阪市平均よりも下回る結果となった。上体起こしでは、全国および大阪市平均よりも上回った。体力合計点では、全国および大阪市平均よりも下回る結果であった。

【女子】上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とびでは、全国および大阪市平均よりも下回った。握力、ソフトボール投げでは、全国および大阪市平均よりも上回った。特に、ソフトボール投げでは、全国および大阪市平均を大きく上回っている。

「運動やスポーツをすることは好きですか」について、肯定的な回答の割合は、男女ともに100%であった。また、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子のみ3割であった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体育科の学習時をはじめ、プール水泳学習、各学期の体力アップ週間(全校ドッジボール大会、なわとび週間、かけ足週間)等の学校行事において、学習カードやがんばりカードを活用することで、子どもたちが目標をもって意欲的に取り組むことができた。

体育科の学習のはじめには、多様な動きを複合的に取り入れたサーキットトレーニングや柔軟・体ほぐし運動を取り入れることで、筋力や持久力アップ、柔軟な体づくりをねらってきた。反復横とびの結果では、男子、女子ともに全国平均、大阪市平均よりも大きく下回り、俊敏性に大きな課題が見られる。

現在の子どもの休みの時間や放課後の活動の動きでは培われにくい部分が課題として浮き彫りとなった。体育科の学習等で、積極的に俊敏性を高める運動を意識して取り入れていく必要がある。